

令和3年度 京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）未修者特別選抜  
口述試験（配点：200点満点）

【出題趣旨】

午前と午後にそれぞれ2グループ、合計4グループに出願者を分けて、オンラインで口述試験を行った。午前の1つ目の試験では、2020年4月2日付日本経済新聞電子版「ながら運転 62%減少 厳罰化後の取り締まり件数」、2020年6月23日付京都新聞夕刊「『横断歩道は手を上げて』復活へ」、中田兼介「いきものたちのりくつ⑭ ハナアブの恩恵」2020年7月1日付京都新聞夕刊のそれぞれ一部を、2つ目の試験では、中澤渉『日本の公教育 学力・コスト・民主主義』（中央公論新社、2018年）の一部を、午後の1つ目の試験では、ニール・ファーガソン「あすへの考【ネットワーク化した世界】コロナ禍 現代の負の側面」2020年4月12日付読売新聞朝刊の一部を、2つ目の試験では、河合雅司『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』（講談社、2017年）の一部を、それぞれ資料として提示し、これらを題材にした試問を行うとともに、出願書類に関する質疑も行い、出願者の論理的思考・判断力、理解・分析力及び表現力等を判定した。

【採点基準】

資料の内容が正確に理解できるか、論理的に物事を考えることができるか、問題を発見しそれを的確に分析する能力を有しているか、質疑への対応が適切にできるか等を踏まえ、総合的な評価を行った。